

地理学的な見方 ・考え方とは？

いろいろな物事の地理的・空間的な広がり注目して、そのパターンや特徴を捉え、それが作り出されるメカニズムや、広がりやの違いから生じる地域間の差異などを読み解き・考察していくのが、「地理学的な見方・考え方」をすることです。

地理的・空間的な広がりとはごく簡単に実感して、それについて考えることができる場合もある一方、地理学的素養が蓄積されて、ようやく見えてくる場合もあります。また、もともと見えないものについては、観測やデータ収集を通じてこそ、その広がりを把握することができます。

地理・環境専攻では、自然環境科目群、人間環境科目群、地域環境科目群の履修を通じて地理学的素養を育み、観測やデータ収集の方法や考え方を情報調査科目、調査研究科目の履修を通じて学んでいきます。それを通じて、専攻生が「地理学的見方・考え方」ができるようになることを大きな教育目標としています。

■詳しい情報は…

地理・環境専攻ホームページにもあります。
(<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>)
「今月の地理画像」「今月の衛星画像」など、連載企画もあり、読んで楽しいホームページです。

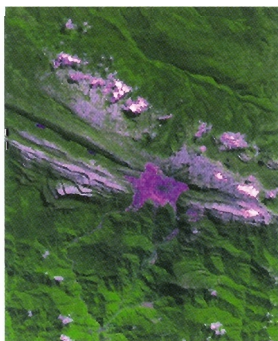


【表紙の写真・リモートセンシング画像】



沖縄本島南部

中央に中城湾が見える。水色の部分は島の周辺を彩るサンゴ礁の浅瀬。この画像には3つの飛行場が見えますが、北端は嘉手納基地、その南が普天間基地、そして西の端は那覇国際空港。この画像からはよく判らないが、基地周辺には、広大な米軍住宅地や軍用地が広がっている。それにくらべ、一般市民の住宅地はずいぶん建て込んでいる。

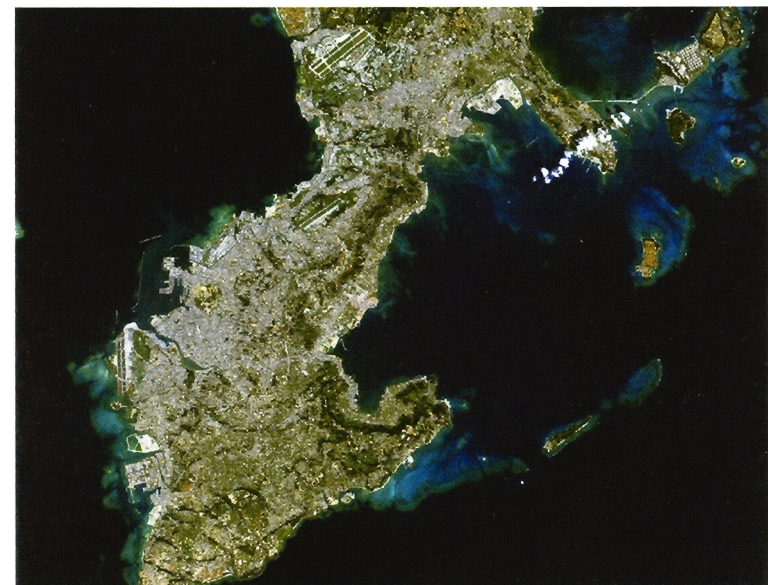


赤道直下の高山で
大規模な環境問題

ニューギニア西部にあるインドネシア最高峰・ジャヤ山(5030m)とその周辺地域をとらえた画像。赤道近くとはいえ、ジャヤ山には小規模な氷河も存在する。この地域では最近、米国の鉱山会社による大規模開発が問題となっている。画像にある巨大な穴は銅と金の露天掘り。世界遺産に登録された国立公園内での大規模鉱山開発と、それに伴う災害、事故、環境汚染などが発生する背景には、巨額資金や政治など複雑な問題が潜んでいる。

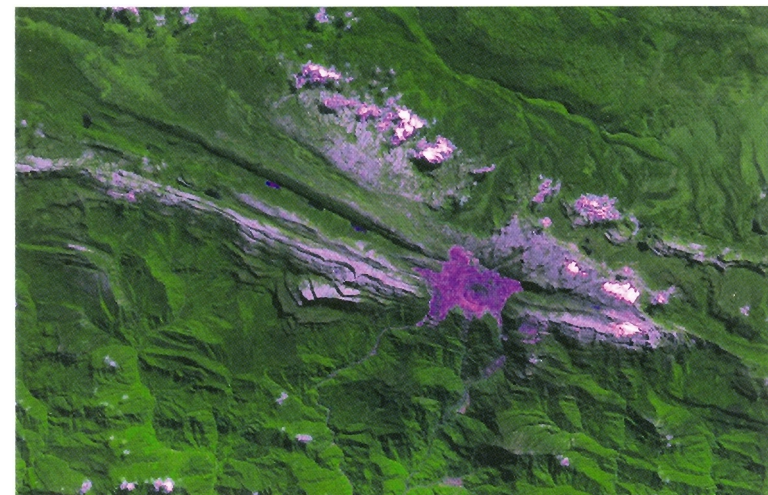
国土舘大学 文学部 地理・環境専攻

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
TEL.03-5481-3231 FAX.03-5481-3328
<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/> (地理学教室)
<http://www.kokushikan.ac.jp> (大学)



国土舘大学 文学部 地理・環境専攻 ご案内

<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>



地理・環境専攻で 学ぶこと・考えること

グローバル化や 環境問題は 地理・環境専攻の 研究対象

机上の学問では ダメ

ちょっと難しい話からはじめましょう…。

私達が住む世界は、空間的な広がり（空間軸）と時間の広がり（時間軸）とによって構成されています。前者が地理学の、後者が歴史学の研究対象となります。ものごとの空間的な広がりの中には、規則性や方向性、あるいは偏りや特異性・例外性、さらには広がりそのものの限界性など、さまざまな興味深い現象がみられます。こうした空間的広がり、あるいは分布を研究対象とし、それに関する理解を深めつつ、そのメカニズムや法則性を検証する、というのが地理・環境専攻で学ぶこと・考えることです。

私達が住む世界の空間的広がりが「環境」そのもので、環境とは単に自然環境を指すのではなく、社会・経済・文化の広がりなどの人文的側面も含む言葉です。本専攻では、自然的・人文的環境の実態やその問題に対し、「地理学的な見方・考え方」を中心にして、学び、考え、取り組んでいます。

「グローバル化」や「環境破壊と保全」といった、地理・環境専攻が直接研究対象とする「問題」が注目されています。

「グローバル化」によって、国境を越えたヒト・モノ・カネの動きは活発化する一方です。海外旅行という行動、農産物の輸出入、普段使うモノに外国製品があふれていることを珍しいと思う人は少ないでしょう。とはいえ、これは長い目で見ればごく最近の現象であり、それがさらに近年、加速化しています。こうした現象は「豊かで便利な社会」を生む一方、それに取り残される人々や地域を生み出しています。とくに、これらの恩恵を受ける地域とそうでない地域は、単純に先進国と低開発国の問題にとどまらず、国内における地域格差としても認められます。

「環境破壊と保全」も似たような性格を持っています。環境破壊が進む地域と保全される地域という違いが見られ、それは単純に捉えられるものではありません。

いずれも地理的スケールをどこにおくかで、みえてくる「問題」も違います。大事なのは「地理学的な見方・考え方」です。

「地理学的な見方・考え方」を机上だけで身につけることは困難です。また研究対象が、今まさに動いている今日的な問題であればこそ、学んだ知識がすぐに陳腐化してしまう場合もあります。新たな知識をもとにあらためて考えていく反復作業が必要で、それを身につけるためには、自らデータを収集し、処理・加工し、それらをもとに考える実践が必要です。

地理・環境専攻では野外実習科目（必修）を設け、実践を通じて作業手法を体得できるようにしています。地理学野外実習A（1年次）と地理学野外実習B（2年次）は1泊、地理学野外実習C（3年次）は3泊の泊まり込みの実習で、日本各地に出かけて現地（フィールド）で実習を行います。

情報調査科目もその多くが、自らデータを収集・加工・処理し、それをもとに考えていくための、室内・外での実習を中心とする科目です。

また希望者は数年おきに開催される海外研修に参加する機会もあります。これまでフィリピン、台湾での研修が行われてきました。

土壌は文字通り地味なものです。各種の汚染や温暖化、砂漠化、生物多様性劣化といったさまざまな環境問題において、その解決に向けての鍵となる重要な存在です。この授業では、キャンパス内の雑木林の土壌を実際に2mほど掘って、本格的な土壌断面の観察を行います。



日本の土壌環境

- | | |
|------------|----------|
| 自然地理概説A* | 日本の植生環境 |
| 自然地理概説B* | 地域の生態環境 |
| 気候環境と生活 | 日本の土壌環境 |
| 沖縄の自然環境 | 第四紀の自然史 |
| 東京の自然環境 | 世界の地形 |
| 地表環境の生い立ち | 日本の水環境 |
| 地域の気候環境 | 海洋と陸水の科学 |
| グローバルな気候環境 | |

自然環境科目群

ヨーロッパ世界という、わが国とは全く異なった自然環境・歴史・文化・社会をもつ地域を正しく理解することを目的としますが、おそらく皆さんが初めて聞く意外な事実や素朴な疑問の解明などを交えた授業が展開されます。

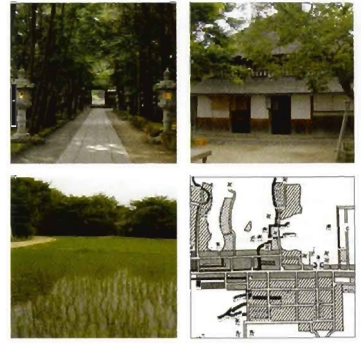


ヨーロッパの環境と人間生活

- | | |
|---------------|-----------------|
| 日本の地誌 | 北アメリカの環境と人間生活 |
| 日本の景観と文化 | 熱帯・乾燥地域の環境と人間生活 |
| 東京大都市圏 | オセアニアの環境と人間生活 |
| 世田谷の地誌 | 世界の社会と経済 |
| アジアの環境と人間生活 | 世界の民族と文化 |
| ヨーロッパの環境と人間生活 | |

地域環境科目群

日本の歴史の各時代を特徴づける景観を取り上げ、その景観復原の歴史地理学的方法を具体的に示しながら、景観形成の要因や社会経済的背景（人文社会環境）を考察し、それらの基盤となる自然環境についても検討します。門前町の発達、城下町の建築などについても触れます。



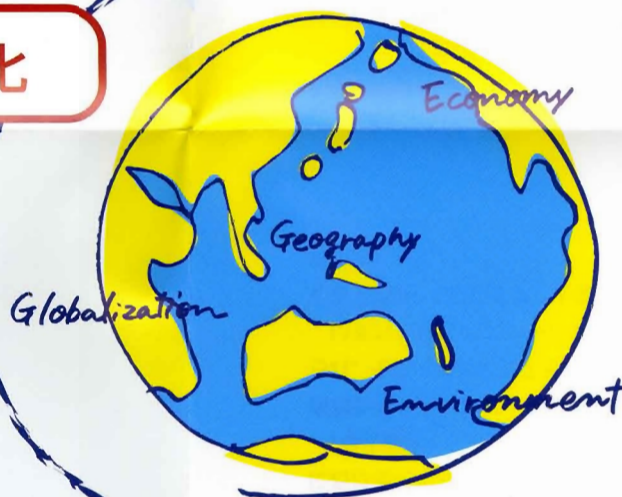
歴史景観と環境

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 人文地理概説A* | 食と農の地理学 | 東洋史概説A |
| 人文地理概説B* | 農村空間と社会 | 東洋史概説B |
| 江戸東京の歴史地理 | 地域計画と景観 | 西洋史概説 |
| 歴史景観と環境 | 地域計画と住民参加 | 日本文化の歴史A |
| 経済と人間生活 | 地域環境保全論 | 日本文化の歴史B |
| サービスの地理学 | 環境問題とアセスメント | 日本の民俗 |
| 交通の発達と環境 | 自然保護と開発 | 文化と伝承 |
| レクリエーションと環境 | 社会環境と人間 | 日本史の中のジェンダー |
| 都市空間と社会 | 環境イメージ論 | 国際交流の歴史 |
| 都市空間と文化 | 旅の地理学 | 産業と流通の歴史 |
| 民俗学 | 環境経済学 | 考古学A |
| 文化人類学 | 日本史概説A | 考古学B |
| 環境と文化 | 日本史概説B | |

人間環境科目群

グローバル化

近年のグローバル化は「世界はひとつ」ということを、これまで以上に我々に実感させてくれます。それは良い面・悪い面の両面において、また人文環境・自然環境の両面においてです。また影響の大きさも場所によって違います。まさに地理学的な見方・考え方が重要になる問題です。



地方都市の問題

世界の中では豊かな日本。しかし、どこの地域も同じように富の恩恵を享受しているわけではありません。豊かな日本の中で、地方都市の工業や商店街の衰退が叫ばれるのはなぜでしょう。ここでも地理学的見方・考え方が重要です。どの地域も同じようになるのなら地理学はいりません。

地球・地域が抱える諸問題

地理学的素養の蓄積（上記の3専門科目群：自然環境科目群・地域環境科目群・人間環境科目群の履修）、地理学的方法の体得（下記の2科目群：情報調査科目群・調査研究科目群の履修）によって、地球・環境が抱えるさまざまな問題に迫ります。

環境問題

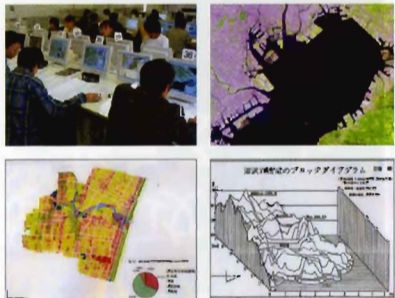
環境問題にはさまざまなものがありますが、それらは問題によってそれぞれ違った地理的な広がりを持っています。またその考察には分野横断的なアプローチを必要とする問題です。地理・環境専攻では、大気、土地、生物、人間などのさまざまな領域について、地理学的な見方・考え方を軸に多くの環境問題にも取り組んでいます。

情報調査科目群

- | | | |
|----------|-------------|---------------|
| 地図学 | 社会調査とデータ分析法 | デジタルマップ製作法 |
| 地形図判読法 | 計量地理学 | 環境リモートセンシング |
| 地域調査法* | 測量学1 | 環境リモートセンシング応用 |
| 自然環境調査法* | 測量学2 | 地理情報システム |
| 環境データ分析法 | 測量実習1 | 地理情報システム応用 |
| 空中写真判読 | 測量実習2 | 洋書購読 |
| 統計情報学入門 | 測量実習3 | |
| 統計情報学応用 | 地図製作法 | |

環境リモートセンシング・環境リモートセンシング応用 ・地理情報システム・地理情報システム応用

GIS（地理情報システム）は空間的な広がりをもつさまざまな事象をデジタル化して、地図と有機的に結び付けるツールです。リモートセンシングもGISも、これらの地理・環境調査には必須の分野です。

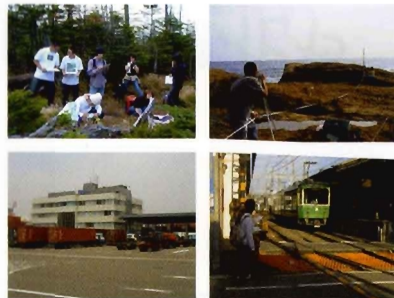


調査研究科目群

- | | |
|-----------|---------|
| 地理学野外実習A* | 地理学演習2* |
| 地理学野外実習B* | 地理学演習3* |
| 地理学野外実習C* | 地理学演習4* |
| 地理学演習1* | 卒業論文* |

地理学野外実習A・B・C

各学年における必修の野外実習科目です。地理・環境専攻では野外学習が頻りに行われ、地理学的な見方・考え方を現地で養います。野外実習は学生同士、学生と教員の交流の場でもあり、充実した学生生活の一コマとして、多くの学生に記憶されることでしょう。



卒業論文

4年間で体得してきた知識や方法を生かしてまとめあげるのが卒業論文です。まさに地理学的見方・考え方の集大成。他大学の卒業論文と比較しても恥ずかしくない力作揃いです。

●卒論タイトルの例

人文地理

- 東京都におけるコミュニティバスの現状と課題
ー杉並区・西東京市を事例としてー
- 台東区におけるマンガ喫茶の立地展開
- 長岡城下町における地域構成とその歴史的変遷
- 山形県における芋煮食の地域性

自然地理

- 東京のヒートアイランド現象と風の影響について
- 東京都草花丘陵における谷頭凹地の樹種構成の特徴
- 分布限界域における竹林の分布とその拡大状況
- 久米島ハテナハマ洲島における近年の海岸線変化
ーオルソ空中写真による検討ー

環境研究

- 千葉・新潟における海岸漂着ゴミの差異
ー気象・海象を考慮した検討ー
- 窪ヶ浦周辺地域のスギ衰退の現状とその要因
- 茨城県北西部におけるイノシシ・ハクビシンによる農作物被害と被害対策の現状
- エコツーリズムの地域的展開と問題点
ー沖縄県各島での事例をもとにー